

# ニーファイの ようにゆるす

アイセアは、ジョシュのことを  
永遠におこっていたくはありませんでした。



ノエル・ランバート・パラス  
(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

このお話はアメリカ合衆国での出来事です。

アイセアは走り、チームメートのティモシーに向かってボールをけりました。ティモシーが足を大きく後ろに引き、ボールをゴールにけりこむのが見えました。

「ゴールだ！」ボールがネットをゆらし、ティモシーがさげびました。

アイセアは歓声を上げました。試合に勝ったのです！

フィールドの外へと歩きながら、アイセアはとてもいい気分を味わっていました。けれどそのとき、相手チームのジョシュが、アイセアのことをいじわるな名前前でよびました。

アイセアはおどろき、きずつきました。何と云えばよいのかわかりませんでした。アイセアはうつむくと、ゆっくりとチームメートのところに歩いて行きました。

「やったな！」ティモシーが言いました。「最高のパスだったよ、アイセア。」

けれど、アイセア気分はとうてい最高とは言えません。ジョシュにあんなひどいことを言われたのですから！アイセアは悲しくて、おこってもいました。

その日はずっと、アイセアは重たい荷物を引きずっているような気分でした。アイセアはもうジョシュのことが好きではありませんでした。

その夜の聖文の時間、アイセアは家族と一緒に座っていました。妹が読む声に耳をかたむけようとしていました。けれど、ついジョシュの言ったことを考えてしまうのです。



アイセアは自分のモルモン書のページをパラパラとめくりました。ニーファイ第一書のせいくが目にとまりました。ニーファイが兄たちから不親切なことをされた場面でした。

「そこでわたしは、兄たちのしたことをすべて心からゆるし」と書いてありました。\*

ニーファイは兄たちをゆるしたの？ アイセアは思いました。あんなにいじわるをされたのに？

アイセアはジョシュのことを考えました。ジョシュに対するいやな気持ちを、永遠に持っていたくありませんでした。ジョシュはまだ10才なのです！

アイセアはニーファイのようになりたいと思いました。ニーファイが兄たちをゆるしたのと同じように、アイセアもジョシュをゆるすことができるはず。それに、もしジョシュがまたいじわるなことを言ってきたら、やめてほしいと云えばいいのです。

アイセアは温かくて平安な気持ちを感じました。まるでせいいから「あなたは正しいことをしていますよ」と言われたかのような感じでした。

「アイセアは、このせいくからどんな原則を学んだ？」ママが聞きました。

アイセアは顔を上げました。「ごめんなさい。よく、別のせいくを読んでいたんだ」とアイセアは言いました。サッカー場で起こったことを家族に話しました。

ママとパパはアイセアをだきしめました。「ジョシュからいじわるをされてつらかったね」とパパが言いました。「ジョシュが言ったことはほんとうのことじゃない。でも、アイセアがそれできずついたり感じるのもあたり前だよ。」

アイセアはにっこりしました。「ありがとう。少しの間は、すごくはらが立っていたんだ。でも聖文を読んだら、ジョシュにいかりを感じていたくないって思っ。ゆるしたいんだ。だから、もう気分は良くなったよ！」

「すごいじゃない！」ママもにっこりと笑いました。「ゆるすことは簡単じゃないこともあるの。でもアイセアは正しいわ。そうするだけのかちがあることよ。」

アイセアは自分の聖典に目を落としました。聖典が助けてくれたのです！さっきまでの重たい荷物は、もう消えていました。その代わりに、アイセアの心は温かい気持ちと平安に満たされていました。●

\*1ニーファイ7:21